



田 中 知加子

本書は対話精神療法を展開し、自らの教育方法としている筆者の実践を編んだものである。同療法について筆者は、対話の技法を用いて対象者に潜在する資質や能力を見極め、引き出し、開花へ導き、その結果「いのち」を蘇らせて自然治癒力を高める療法と語っている。

三部構成のうち、第一部「心をはぐくむ対話」では筆者が小学校のスクールカウンセラーを経験する中で出会った生徒、保護者、教員等との対話を紹介する。具体的なケースを通じて治療の有り様が明確に浮かび上がってくる。私自身は日頃の調査活動と重なる部分もあり、参考になった。なお、いじめを止めることのできない少女の事例は、関与した人々それぞれの心の動きが綿密に描き出され圧巻である。

第二部「人をはぐくむ対話」においては前著「対話の技」に登場した少年・少女が、その後三年間の経緯を自ら綴り、

彼等の母親たちもコメントを寄せている。予後を被治療者の側から振り返るという内容で、興味深く読んだ。

第三部「生をはぐくむ対話」では大学教員を本職とする筆者が学生とのかかわりで繰り広げる「いのちの流れに沿う教育」を垣間見ることができる。そこでは知識の伝授に止まらず、心理療法をも盛り込んだ授業により「眞の自己」に気付くよう導きがなされていく。また、筆者自身が師神田橋條治氏と交わしてきた対話も赤裸々に綴られている。

以上を通じ、何にも増して心に残るのは教育に対する情熱とケースへの真摯な姿勢であった。常に真剣勝負の筆者は時として体力以上のものを發揮し、体調を崩してしまう。まさに「いのち」をはった教育で、その姿勢・文章には凄みがある。私など早々に、ここまでではできないと白旗を揚げてしまうが、非凡人の書いたものを読むことで追体験し、知識を共有できるのはありがたい。新緑のいのち輝く季節におすすめしたい一冊である。

A5 判・302 頁 定価 2,940 円
2004 年 9 月刊 新 耀 社

(たなか ちかこ
(東京家庭裁判所調査官)